

企画名：荒廃した森を再生し、エネルギーの地産地消で持続可能なまちづくり

団体名：特定非営利活動法人おかやまエネルギーの未来を考える会

1. 報告要旨

岡山県高梁市の面積は森林が78%を占めているが、所有者の高齢化などにより多くは手入れされないまま現在に至っている。一方で熱需要のある福祉施設等はほとんどを化石燃料に頼っていて、年間約40億円の化石燃料購入費が域外へ流出している状況にある。こうしたことから地域の「NPO 法人フォレストフォーピープル岡山」と連携して一部の森で実態調査を行い、資産価値を把握した上で間伐、林地残材をバイオマス燃料として製造・活用するモデルを作ることにした。

事業展開中の2018年7月、西日本豪雨が発生、高梁市内も甚大な被害を受けた。これは気候変動による異常気象との関連が指摘されている。迫りくる気候変動をくい止め、世界の平均気温を1.5℃未満に留めるためには2050年ごろに化石燃料の二酸化炭素排出をゼロにすることが必要とされており、地域の資源をエネルギー利用して持続可能な地域づくりをすることは喫緊の課題である。

調査・視察としてはボイラー導入を検討するゲストハウスのオーナーとともに大垣市の小型薪ボイラーを体験、またメンテナンスの研修も受けた。他にもハウス用ストーブ、キッチンストーブ、小型バイオマス発電施設、地域熱供給でまちづくりを進める岩手県紫波町の取り組みなど、高梁地域での取り組みに参考になる情報をいろいろと収集した。

そして、需要側として市の施設「高梁美しい森」ビジターセンターの研修室を借りて薪ストーブを設置、施設を訪れる人たちに地域の資源を地域で使うことの大切さを普及啓発している。また次年度はゲストハウスに小型薪ボイラーを導入予定であるほか、薪をログハウスメーカーに供給するなどの動きが出ている。

高梁市には提言書とこれまでの調査結果を提出、今後改定の「高梁市新総合計画」等に木質バイオマス・エネルギーの導入推進を政策として入れてもらうよう要望した。

2. 成果物

1. 株式会社森の仲間たち「[薪ボイラー導入検討資料](#)」(2018.8.1)
2. 株式会社森の仲間たち「老人保健施設 ひだまり苑におけるチップボイラー導入の可能性」(2018.10.10)
3. 「[高梁市における木質バイオマス・エネルギー活用の提言](#)」